

目標の達成に向けた体系

区民の役割

取り組み方針1 食品ロス問題の現状を理解します

取り組み内容1 食品ロスの状況と、その影響や削減の必要性について理解を深めます

区が行う施策 食品ロスに関する情報発信の充実、食品ロス削減啓発イベントの実施 等

取り組み内容2 食品ロスを削減するために自らができることを考えます

区が行う施策 食品ロス削減に関する教育、社会情勢に応じた食品ロス削減の啓発 等

取り組み方針2 日々の生活で“もったいない”を意識し、社会全体で食品ロスを削減できるよう行動します

取り組み内容1 食品ロスを削減するためにできることを日頃の生活から実践します

区が行う施策 食品ロス削減の工夫をまとめた冊子・ホームページの作成 等

取り組み内容2 飲食店・小売店と双方向でコミュニケーションを取るよう努めます

区が行う施策 店舗とその利用者が互いに声を掛け合うことができる環境づくり 等

取り組み内容3 食品ロス削減に取り組む飲食店や小売店などを応援します

区が行う施策 商店街との連携による食品ロス削減の啓発、食品ロス削減に取り組む店舗の周知 等

事業者の役割

取り組み方針3 食品ロス問題の現状を理解します

取り組み内容1 食品ロスの状況と、その影響や削減の必要性について理解を深めます

区が行う施策 食品ロスに関する情報発信の充実、オフィス内における食品ロス削減支援 等

取り組み内容2 自分たちの取り組みを区民に情報提供します

区が行う施策 民間事業者の取り組み事例に関する情報の収集及び周知 等

取り組み内容3 国や都が実施する食品ロス削減運動に協力します

区が行う施策 国や都が実施する食品ロス削減運動の紹介 等

取り組み方針4 日々の事業活動から排出される食品廃棄物の削減に努めます

取り組み内容1 他事業者や行政等と連携します

区が行う施策 食品ロス削減ネットワークの構築、民間事業者との連携の充実 等

取り組み内容2 利用者と双方向でコミュニケーションを取るよう努めます

区が行う施策 店舗とその利用者が互いに声を掛け合うことができる環境づくり 等

取り組み内容3 排出される食品廃棄物の削減に努め、それでも発生する食品廃棄物は適切に再生利用を行います

区が行う施策 食品廃棄物削減の促進、事業者間の食品ロス削減に向けた連携促進 等

行政の役割

取り組み方針5 区民・事業者それぞれが主体的に行動できるような環境づくりを進めます

取り組み内容1 区民や事業者への情報発信を充実させます

区が行う施策 様々な媒体を活用した情報発信の充実、イベントにおける情報発信 等

取り組み内容2 行政自らが食品ロスや食品廃棄物の削減に取り組めます

区が行う施策 食品ロス削減に向けた意識の醸成と取り組みの推進 等

取り組み内容3 食品ロス削減事業を充実させます

区が行う施策 フードドライブ事業の充実、食品ロス削減啓発事業の充実 等

取り組み方針6 民間企業の技術や活力等を活用して、区民・事業者の取り組みを支援します

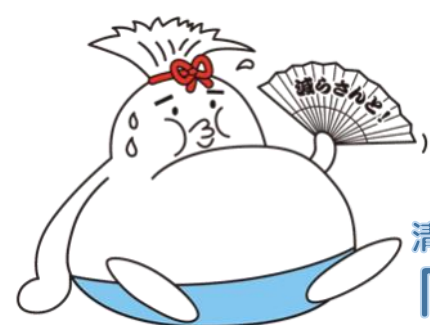
取り組み内容1 官・民・学で連携を進めます

区が行う施策 食品ロス削減ネットワークの構築、民間事業者との連携の充実 等

取り組み内容2 民間企業や団体の先進的な取り組みを活用します

区が行う施策 新たなプラットフォームの検討、スマートフォンアプリの活用 等

世田谷区食品ロス削減推進計画 (概要版)



清掃・リサイクル部公式キャラクター
「ヘラソ」

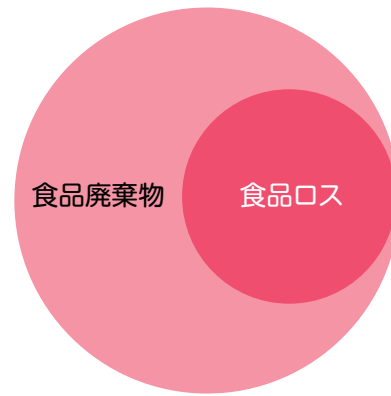
食品ロスは、単に食品の無駄という問題だけではなく、地球規模での気候変動や水問題、貧困や飢餓問題などに大きく関係しています。食品ロスの削減が、多面的な問題解決につながるという視点を持つことがとても大切です。本計画は、区民・事業者・行政がそれぞれの役割を認識し、互いにコミュニケーションをとりながら食品ロスの削減に取り組むことを目的として策定しました。

1.食品ロスの定義

「『食べる』を目的に生産、加工、調理され、本来食べることができるにもかかわらず、人の口に入らずに捨てられてしまっているすべての食品」と定義します。

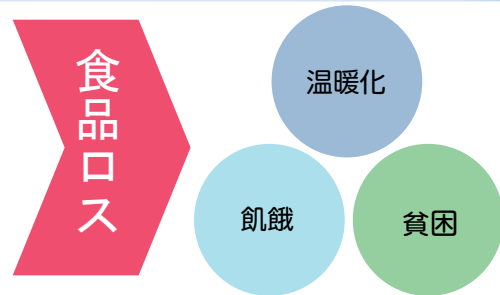
食品廃棄物及び食品ロスについて、本計画では、以下の通り分類します。

| 分類 | | 例 |
|-------|------------------------------|---|
| 食品廃棄物 | 可食部分 ※本来食べられる部分 (食品ロス) | 家庭系 ●未使用・未開封食品 ●賞味・消費期限切れ ●食べ残し ●過剰除去 事業系 本来商品として生産・製造されたにもかかわらず廃棄されてしまう食品 ●売れ残り ●賞味・消費期限切れ ●規格外の商品 ●客の食べ残し |
| | 非可食部分 ※元々食べられない部分 | 家庭系 ●調理くず(野菜の芯、卵の殻、魚の骨等) 事業系 元々商品価値がなく、販売できない食品 ●食品加工残渣(商品製造時のくず等) ●調理くず(野菜の芯、魚の骨等) |



2.なぜ食品ロスを減らす?

食品ロスは様々な面で環境へ負荷をかけており、例えば、生産・運搬・加工に使用されたエネルギーが無駄になったり、CO2排出による地球温暖化の要因となっています。また、飢餓や貧困といった問題にも大きく関係しています。食品ロスを削減することは、こうした問題の解決の糸口になりえます。

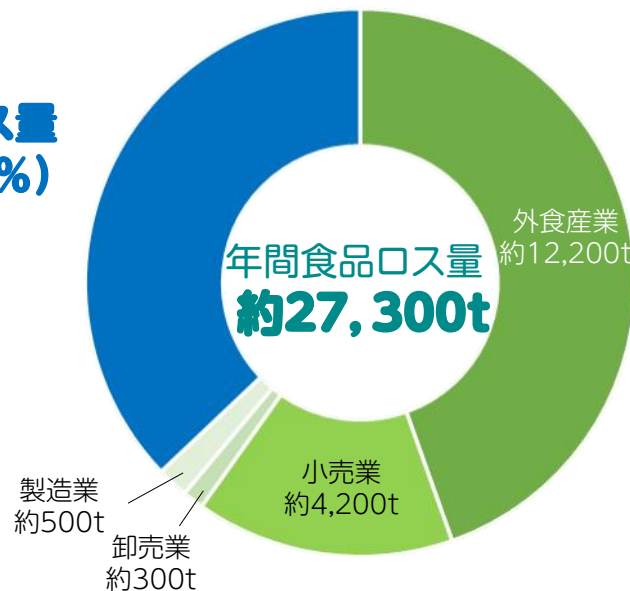


3.食品ロスの現状

世田谷区では、食品ロスが家庭から約10,100t、事業所から約17,200tと合計約27,300t発生していると推計しています。

**家庭からの食品ロス量
約10,100t(37.1%)**

※2014年度～2019年度平均



**事業系食品ロス量
約17,200t(62.9%)**

※2017年度

4.食品ロス削減に向けた基本理念

食べ物を大切にして、食品ロスを出さないことで環境への負荷を減らし、将来に渡って幸せな生活を営むことができる社会の実現をめざします

食べ物を大切にする意識や廃棄物を減らす意識をもって、食品ロスが発生させることなく、大人も子どももみんなが必要な食事をとることができる、幸せな社会の実現を目指すことを本計画の基本理念とします。

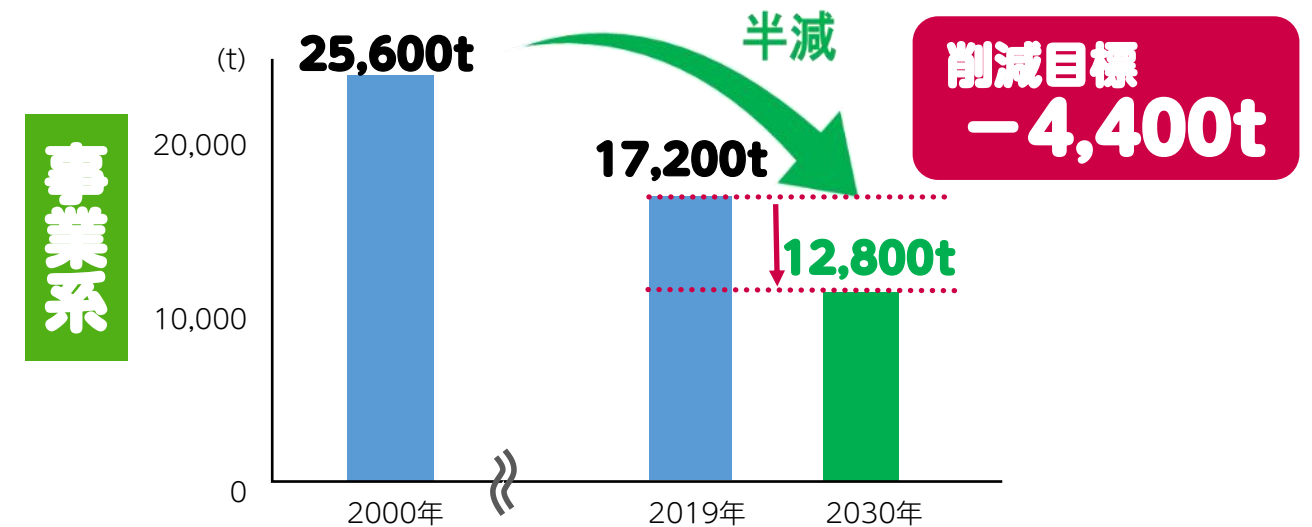
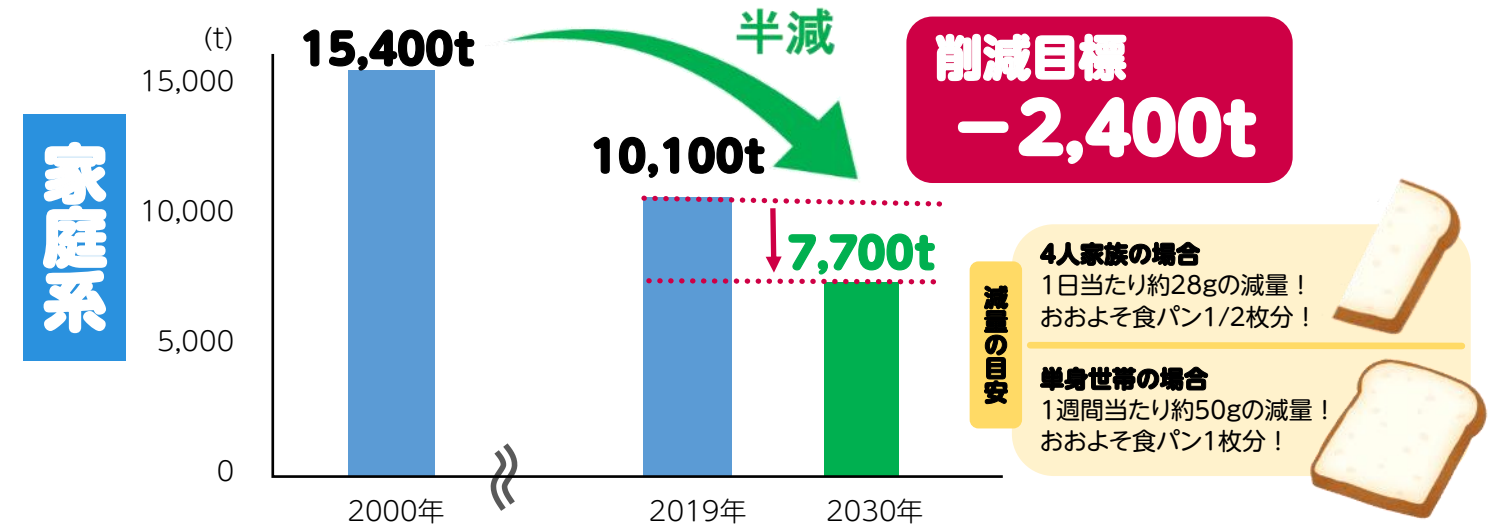
5.食品ロス削減推進計画で設定する目標

①食品ロスの削減目標

2030年までに家庭及び事業所から出る食品ロスの量を2000年比で半減します。

【削減目標量】 家庭系 食品ロス削減量 2,400トン 事業系 食品ロス削減量 4,400トン

| | 2000年 | 2019年 | 2030年 |
|----------|----------|----------|----------|
| 家庭系食品ロス量 | 15,400トン | 10,100トン | 7,700トン |
| 事業系食品ロス量 | 25,600トン | 17,200トン | 12,800トン |



②食品廃棄物の削減目標

区民・事業者の取り組みを促し、食品廃棄物のリサイクル率を向上させ、将来的に削減をめざします。